

地球温暖化対策計画書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	鳴海製陶株式会社
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市緑区鳴海町字伝治山3番地
工場等の名称	鳴海製陶株式会社 本社工場
工場等の所在地	名古屋市緑区鳴海町字伝治山3番地
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	洋食器および関連商品の卸売り、結晶化ガラス工業製品の加工
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	令和4年7月29日 ～ 令和7年3月31日		
公表方法		掲示 閲覧	(場所)
	○	ホームページ	(HPアドレス) https://www.narumi.co.jp/
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-896-2213		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

環 境 方 針

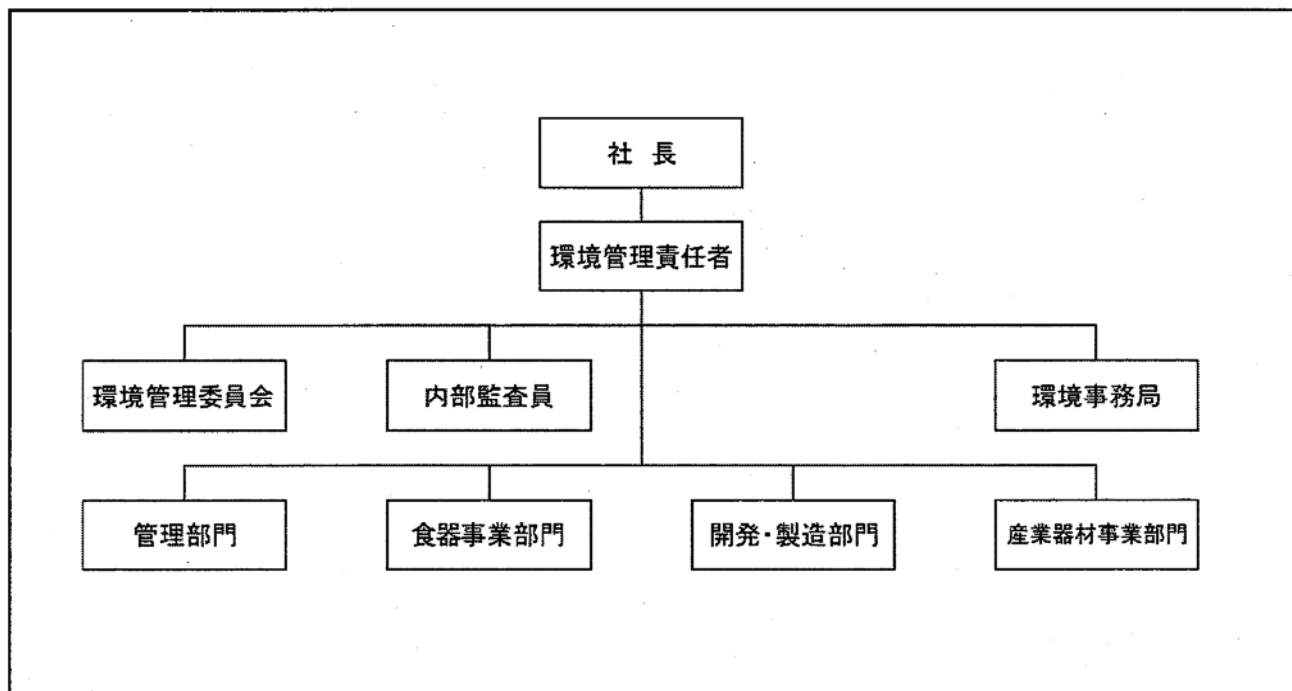
〔環境理念〕

地球環境の保全は、人類社会共通の最重要課題である。鳴海製陶株式会社本社工場は、環境保全など地球環境を総合的に考慮し、循環型社会へ対応できる企業活動を行う。

〔行動指針〕

1. 鳴海製陶株式会社本社工場の活動、製品およびサービスが環境に与える影響を把握し、ISO14001に準拠した適切な環境マネジメントシステムを構築し、環境目標を設定し、これを定期的に見直し継続的な改善を図り、環境保全に取り組む。
2. 環境保全に関連する法律・条例および同意したその他の要求事項を順守する。
3. 大気・土壌・水質の汚染予防に努め、地域社会との共生をめざす。
4. 省エネ、省資源、リサイクルを推進し、産業廃棄物の削減と、環境負荷低減のための技術の導入に努める。
5. 製品および材料の有害化学物質の管理は、法規制およびユーザーの要求事項を順守する。
6. この環境方針を文書化して、鳴海製陶株式会社本社工場で働くまたは鳴海製陶株式会社本社工場のために働くすべての人に周知し、環境保全に関する意識向上を図る。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,245	t-CO ₂
① （温 室 効 果 ガ ス 換 算 ）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふつ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふつ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		2,245	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
温 室 効 果 ガ ス 総 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂		%

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
原 単 位 あ た り の 排 出 量	366.7	kg- CO ₂ / 百万円	355.7	kg- CO ₂ / 百万円	3.0	%

（2）目標設定の考え方

エネルギーの使用の合理化に関する法律の規定に基づき、「中長期的にみて年平均1%以上のエネルギー消費原単位の提言」を達成すべく、3年間で3%（1%/年×3年）の消費原単位を低減させる
--

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

[illegible]

指針第1号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・廃棄物のリサイクル推進・認証取得しているISO14001の継続的な改善活動に努める。・従業員への環境教育を実施する。・環境デーなごやの「パートナーシップ事業」に継続して参入する。・可能な範囲で、グリーン購入法適合品やエコマーク商品の購入を勧める。 |
|--|

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

環境に対する意識の啓蒙

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・毎月8日を目安とし、環境に関する情報を、WEB掲示板等で発信する。 |
|--|